

学生大使 実施報告書

氏名:佐藤亜紀

学部・学科(コース)・学年:地域教育文化学部児童教育コース2年

派遣先大学:ラトビア大学

派遣期間:2025/02/27~2025/03/13

1 日本語教室での活動内容

日本語教室は、平日の16時10分から90分の授業を2コマ分行った。ラトビアの学生と日本人学生が1対1で授業をすることもあれば、複数の日本人とラトビア大学の学生や社会人の方とグループになって授業を行うことがあった。参加してくれる方達は、主にラトビア大学のアジアの文化や歴史を専攻している学生達で日本についてではなく、韓国や中国について学んでいる学生も多く参加してくれたため、中々日本語を教えるという段階まで行かない場合があった。実際に、1日目に話をした学生は、日本語を学んではいたが、日本語を話すことがまだ出来ないとっていて英語で会話をした。主に、お互い大学でどんなことを学んでいるのか、将来何になりたいのか、好きな音楽は何かお互いの趣味や考えを共有した。2日目以降は、日本語を専攻していて日本語を話すことが出来る学生と沢山話をした。日本語を話すことが出来ていて、その日授業で既に文法を学んできたということで、文法を教えるなど硬いことをするのではなく、ラトビア大学の学生2人と日本人3人でカルタをしたり、日本の子どもたちが誰しもやる手遊びや今日本で流行っている曲を共有したりした。日本の文化やリアルな生活などを伝えることが出来たと考える。その中でも、私たちが日本語を使っているとだんだんラトビア大学の学生も自然と日本語を聞き取れるようになっていたり、日本語を使っている様子が見られた。このような活動を通して、単語力やその言語に対する知識を身につけるために勉強することはもちろん必要だが、日常的にその言語を使うことでより身につき、力になると考えた。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室が16時からと遅めだったため、日本語教室で仲良くなった学生たちと、その日に一緒に夕食を食べに行くことが何度かあった。そこで色々な話をし、とても有意義な時間を過ごすことができた。日本語教室に来てくださった社会人の方が、授業を終えたあと、一緒に私たちのアパートでアオクスタズッパと言うラトビアの伝統的なビーツのスープを作ってくださいることになり、一緒にスーパーへ行き、ズッパを作りみんなで夕食を食べとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。また、次の日の授業までの予定を立て、一緒に遊んでから大学に向かうことがあった。日本語教室で、お互いの幼少期の話からバスケットボールをしようという話になり、ラトビア大学の学生2人と、いくつかの日本人学生を誘い大学の近くの公園でバスケットボールをした。体を動かしながらコミュニケーションをとることで、お互いの緊張が解け、よりオープンで、自然な、良い関係を築くことができたと思う。

3 参加目標への達成度と努力した内容

今回の目標は「ラトビアを知る」と「積極的に現地学生と会話をする」ことの2つであった。2つの

【学生大使 実施報告書】

目標は繋がっていて、会話をしていく中でラトビアの文化や歴史について知ろうと考えた。どちらもおおむね達成できたと考える。日本語教室ではもちろん、日本語教室以外でも授業後に一緒に夕食に行ったり、アパートでパーティをしたり、一緒に出かけることでラトビア大学の学生と積極的に関わり、たくさんの会話をする事が出来た。会話の内容は様々で、ラトビア人と日本人はどうして仲良くなれるのだと思うか。ラトビアの歴史など真面目な話もしたが、年齢が近いからこそ話すことが出来る話題に触れたり、ラトビア大学の学生はどんな質問でも丁寧に答えてくれた。意思疎通が困難な時はもう一度いってもらってもいい?といい、繰り返しゆっくりいってもらったり、簡単な英語に言い換えてくれたり、絵に書いて説明してくれた。そのおかげで、ラトビア語には男性名詞と女性名詞が存在していることや、ラトビア人は、ラトビア人と日本人は温厚で控えめな所が似ていると感じていること等ラトビアについて本では得ることができない情報を知ることができた。

4 プログラムに参加した感想

初めて海外ということでもとても緊張していて、不安な気持ちでいっぱいだった。しかし、このプログラムでは、日本に興味がある人々が来てくれることや、年齢が近いからこそ教えられる言葉を伝えることができることもあり、沢山対話をし、仲を深めることが出来た。そのため、私のように海外に行くのが初めてという人でも、現地学生と仲良くなり、行動を共にすることで安心して行動することができた。このプログラムで、現地の学生と交流することができたというのはとても素晴らしい経験であり、このプログラムでしかできない経験であったと考える。

また、ラトビア大学の学生たちは遠く離れた日本という国に興味を持ち、日本がただ好きという理由で、日本語を話せるようになるまで沢山勉強をしていた。そんな彼らを心から尊敬した。遠く離れた彼らが色々なことに挑戦し、頑張っていると知ることができたことをきっかけに私ももっと頑張らなくてはと自分の励みになったこともこのプログラムに参加してよかったと思うことができた。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回の経験を通して、もっと色々な国から行って見たいと強く感じた。私は小さい頃から海外に行って見たいという気持ちが強くあった。自分が想像していたより世界ははるかに広く、実際に日本を出て、他の国で過ごしてみると日本での当たり前が他の国では当たり前でないことを実感することができたり、もっと流暢に英語で日常会話をできるようになりたい、もっと歴史を学びたいなど、自分が大きく成長するために必要な向上心や好奇心をかき立てられる2週間であった。日本をでて沢山の人やものに関わることで、自分にはない価値観や日本とは違う景色、建築物、規則、自分が見たことない沢山のものに触れることができるそんな経験をこれからも沢山していきたいと感じた。また、英語を使って色々な国の人と会話をし友達になりたいと思ったのに加え、日本語を毎日一生懸命勉強し会話することができていたラトビア大学の学生を思い返すと、毎日継続して学習を続けることの大切さを実感した。そのため、私も英語のリスニングを毎日聞くなどし、英語力を付ける努力を怠らないと決めた。

6 現地での活動写真

写真1

手作りアウクスタズッパ



写真2

聖ペテロ教会の展望台からみえるリガの景色



写真 3

日本語教室の前に一緒にしたバスケットボール



写真 4

最後の日本語教室の時の集合写真

